蒼空を飛ぶ少女

幻～まぼろし～

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
蒼空を飛ぶ少女

【Ｎコード】
Ｎ２４４２Ｐ

【作者名】
幻～まぼろし～

【あらすじ】
空想を使う少女の物語？

空想使用少女の飛行

～♪

携帯の目覚めしで目が覚める私。それにしてもいい朝…。気持ちいいよねっ。季節が春に変わり、学年が変わるこの４月。

『ふぁ～ぁ。よくねた…。今日から学生では無いんだっけな…。春休みが恋しいよ…。っと…。いまは…。』

携帯をひらき、アラームをとめた。うーん。何時だろう

『うん。８時５０分で問題ない…ある！会社に間に合わないじゃん！間違えたよ！何やってんだよ！』

まだ着替えてない学生気分の抜けない私は慌てて着替えている。スカートをはき、下着を着け、服を着て外にでる。

『んー。気持ちいい～♪』

春の日差しを浴びる私。ってやってる暇は無いんだよ！私は会社まで走る。一先ず電車に乗る時間はない（時間が合わない）のでとにかく走る。

まぁ私は霧島（きりしま）　徠（らい）今年大学を卒業、そのまま就職。一応警察と張り合う実力がある。

カーン。カーン

９時を知らせる鐘が鳴る。此処から5分は遅刻扱いされないらしい。しかし、会社まではまだ7ｋｍある。５分じゃ到底無理だ！

『どうしよう…。このままじゃなぁ…。はぁ…。使うしかないか…。』

私は想像をして、トランポリンを設置する。会社まで行けるやつを。みんなが見る中で…。まさか会社に入ってまで使うとかね…。自分のアホさ加減に絶望したよ。

『警察がいませんように…！とべぇぇ！』

空を飛ぶ。まだ少しひんやりした風が足を撫でる。

私は上昇中にカロリーメイトを取り出し、頬張る。俄然、味はメープル。私はそれ以外認めない！てか急げよ！

それと食すと同時にタバコに火を着ける。上昇しきった所で、一息ついて重力を受け止める。それと身体は落下を始めた。

タバコを携帯灰皿にしまい、着地の準備を始める。スカートが舞い、パンツまでが見える。

『そこの中学生！見ながらハァハァしてんじゃねぇ！』

『見せてるのはお前だ！全く、朝から仕事だと思ったらまたお前か！空想使用条例違反で署までご同行願おうか。霧島徠さん？』

あ…。またかよ。

警察にマットの上に下ろされ、連れていかれる。しかし、これで掴まる私では無い！

『こんなんか。甘いよ！』

警察の肩を手で叩き、一瞬の隙を逃さず、スッと抜ける。

『待て！警察だ！大人しくしろ！霧島徠！』

しかしそこに包囲された私。あちゃー。マジかよ。

『なんてね。時間が無いんだよ！』

またトランポリンを出し、飛ぶ！目指すは会社！

『チッ。方角を調べろ！』

『ここから南南西、霧島徠は時速１００ｋｍ／ｈで飛行中。』

『また捕まえられなかったか…。』

空を二回飛んだ私、実は高校からの空想使用条例違反の常習犯。遅刻扱いになりたくないからね。簡単に言えばお寝坊さんである。

そんなこんなで会社には9時3分についた。ダッシュでタイムカードを切り、滑り込みセーフを成し遂げた。

若干寝起き紛いの私は化粧室にそのまま直行し、急いで化粧をす

る。そして乱れたの髪の毛を携帯型の櫛(くし)でとかし、きれいにしておろす。よし！完璧だ！そして急いで行き、始まっている朝礼に参加する。身の回りの掃除をすまし、仕事を始める。正直掃除はだるい。清掃員でも雇えばいいのに…。どんな会社なの！？まあいいや…。それは置いておく。私はデータ入力の仕事で一先ずＥｘｃｅｌに空想使用条例違反の人数打ち込んで計算等をして、終わらせる楽な仕事。グラフ化もしないといけなかったっけ？

『よし！あとは棒グラフにして…。出来た。』

後は保存して圧縮して送信っと。よし！出来た！なんとか完成したかな。あー。お腹すいたよぅ。カロリーメイトのみでは堪える…。

『あー。頭も痛い…。』

『徠さん大丈夫？あと書類に不備が…。と言うより訂正。棒グラフから円グラフに。パーセント表示に直して欲しいって』

『わかりました～。てかさん付けはよしてよ。幼なじみなんだから。』

先程訂正の話をしてくれたのは相川祥平(あいかわしょうへい)さん。私の同期で頼もしい幼なじみ。一番信頼出来る人だ。入社式で会った時はびっくりしたね。

それにしても訂正ってだるいな…。まぁ頑張ってやるか。まぁこんなの簡単だしね。グラフを変更して＋パーセントにすればいいね。そうすれば問題ないな。うん。大丈夫だ。問題ない。

『部長。終わりました。』

声をかけるのと同時にメールで送信する。

『ありがとう。お疲れ様。一先ず休憩にしよう。１０時だ。』

りりーん。

部長が鈴をならし、休憩に入る。今から３０分間休憩だ。

『徠くん。君は優秀だね。』

『いえいえ。私はパソコン使うのが好きだったのでＥｘｃｅｌとワードは簡単ですよ。そもそも大学が完全なパソコン学校だったので…』

『そうか。まぁよろしく頼むよ。』
『はい！』
私は元気に返事をした後、部長と別れ、喫煙所に向かった。屋上の扉をあけ、心地よい風を受けながら分煙されたスペースに入る。
『ふぅー。一息つけたー…。ってなんで祥平がいるの！？あんたまでタバコ吸うの！？』
『うん。大学で吸うようになったよ。』
『バカなの？からだに悪いよ！』
『徠だって！徠が十六歳から吸ってるから影響されたの！本来なら捕まるでしょ？』
私が原因かよ！まぁ遊ぶ度吸ってたらこうなるか…。
『そして！なんで銘柄まで一緒なの！？なんで！！』
『徠のせい！』
しかもすべて一緒だ。マルボロのブラックメンソールの８ｍｇ。ここまではなれられないのかっ！
『まぁいいじゃん。ところで今日も空想使った？』
『当然！じゃないと遅刻だよ！』
『警察に見つかるなよ（ダメだこいつ。早くなんとかしないと…）。』
『既に今朝見つかったよ…。』
『…（バカか！常習犯だったらそれを直そうとか考えるのは当たり前だろ！）何やってんだよ。』
『しょうがないじゃん！アラームかけ間違えたんだもん！８時５０分にかけたの！』
『学校と勘違いしたか？馬鹿だな。いや…。天然なのか？』
『うっさい！だまれ！入社式に遅刻寸前できた祥平に言われたくねぇし！』
『う゛っ…。』
『その時は完全に空想を使用したんでしょ？』
『っ！だまれよ！今日の徠だって一緒だろ？』

話はドンドンヒートアップし、結局決着はつかないまま終わった。
見事に休憩が終わってからも話していた私たちは、見事に遅刻をしてこっぴどく叱られた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2442p/

蒼空を飛ぶ少女

2010年12月11日00時01分発行